

秋の収穫



慌ただしく賑やかな夏も過ぎ、いよいよ秋も深まってまいりました。秋といえば食欲の秋、皆さんはどのような食べ物をイメージするでしょうか。

私はまず焼き芋を思い浮かべます。リヤカーや軽自動車の荷台に釜を積んだ石焼き芋売りの古謡を聴き、秋を感じたものです。今ではコンピニヤ八百屋でも、気軽に安くて美味しい焼き芋を手に入れる事が出来る様になりました。

石焼き芋の原料であるサツマイモは、中国から沖縄・九州に一六〇〇年頃伝来しました。痩せた地でも遅く育つ事から、広まっていきました。一七三二年、瀬戸内海を中心に西日本が大凶作に見舞われ、食糧不足に陥る中、サツマイモ栽培を行っていた、同じく瀬戸内海・大島だけは飢餓者がまったく出なかつた事でサツマイモの有用性を天下に知らしめました。

太平洋戦争中も食糧難の中、空き地があればサツマイモを植え、米と混ぜて芋ご飯、また芋のツルを雑炊やすいとんに入れ、餓えをしのいだとの話を父母から聞いた事があります。

戦争が終わり現在では、幼稚園や保育園でこの時期お芋堀が恒例の行事となっており、私の子供達も毎年袋いっぱい、泥のついたままのサツマイモを嬉しそうに持ち帰り、天ぷらやミルク煮などにし、お腹いっぱい食した幸福な思い出があります。

皆さんも是非この時期、ホクホクの焼き芋を召し上がり、秋を存分に感じていただきたいと思います。

作業療法士 岡部 明代

特集 『ロボットスーツHAL®』 第2回

“HAL”について知っておきたいこと！！

“HAL”って
どんな人が使えるの？

HALの対象となるのは、体が思うように動かず、立ち座りや歩行動作が難しいと感じる方、または動作に介助が必要な方となります。その中で実際にHALを活用している疾患として多いのは、脳血管障害（脳梗塞、脳出血など）や脊髄損傷で、全体の5割を占めています。

実際にHALを使用している疾患

- 脳血管障害（脳梗塞、脳出血など）
- 脊髄損傷
- 脳性麻痺
- 整形疾患（骨折、変形など）…など

HALを使用できない方

- 心臓ペースメーカーなど埋め込み医療器具を使用されている方
- HALが筋肉の動きを感知できない程、筋力の弱い方
- 医師から“HALの使用適合ではない”と診断された方
- 妊娠中の女性

サイズ	Sサイズ	Mサイズ	Lサイズ
適用身長	145~165cm	150~170cm	165~185cm
適用体重	80kg以下		
靴のサイズ	22.0,23.0,24.0,25.0,26.0,27.5,28.0		

HALにはサイズがあり、利用する方の体に適したサイズを使用する必要があります。

現在、国立あおやぎ苑にはLサイズのHALが置かれています。

また、HALの対象になっても、以下のような要因があると使用が困難となる場合があります。

- ひどく疲れやすく、一定以上の時間の運動が行えない
- 重度の感覚障害があり、HALを装着しても運動が十分に行えない
- 注意が散漫しやすく、集中して運動が行えない
- 関節が固まってしまい、HALが装着できない
- 腹部や背部の筋力が弱く、座った姿勢や立った姿勢を保てない
- 認知症や失語などによりコミュニケーションが上手く図れない など

HALは機械であるという特性上、使用するうえで安全性を十分に考慮しなければなりません。そのため、このように様々な要因を考慮しながら、リハビリの場で活用されています。

チーム紹介⑤

相談室

こんにちは。相談室です。
御利用者様からのサービス申込受付から、サービスの連絡・調整などなど、何でも屋として頑張っています。御役に立てることがありましたら、ぜひお声かけください。



松田典子 野口夕子



佐々木孝子 松田敬司 石川雄一郎

あおやぎ徒然草 4

祝い菓子 (第2回)

徳川幕府の参勤交代は、和菓子の発展に貢献した。大名が江戸へ参るときは、まず將軍に挨拶に登城し、主に領国の特産品を持参した。一方、將軍家は献上品のお返しとして、日持ちのする干菓子などを下賜(かし)された。大名が拝領した干菓子は家臣らにおすそ分けされ、大名が好んで口にした京都の菓子は、領国の故郷にも伝わった。茶湯のさかんな地方では、京都の干菓子に人気が集まった。その頃より、茶の湯と和菓子は、つよい絆で結ばれるようになった。

旅人が行き来する街道や観光地では、団子や饅頭に人気があった。言問団子(ことといだんご)は、能「隅田川」で在原業平(ありわらのなりひら)が詠んだ歌にちなんでつけられた。

名にしをば いざ言問わん 都烏
わが思う人は ありやなしやと

向島の和菓子の老舗「言問団子」では、明治4年の創業以来、「小豆あん」、「白あん」、「青梅」の3色の串に刺さないお団子の他、都烏の型をした最中も売っているそうです。スカイツリーにも出店しており、東京名物のお菓子の一つに上げられています。一度、食べてみたいですね。

クリニック紹介

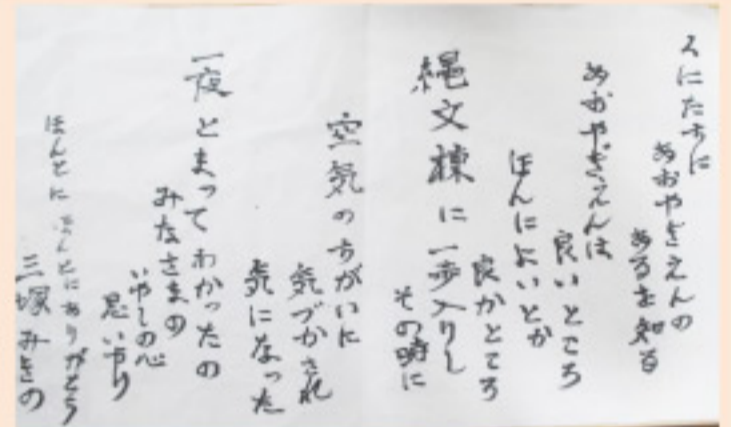
この度、平成26年10月2日(木)オープン決定!!

当診療所では、外来診察を行う他に17床の療養病棟を備え、高齢化社会において質の高い医療、看護、介護サービスを提供し、地域の皆様に安心してご利用いただける診療所を目指して参ります。



縄文棟3階国立 あおやぎ苑を 利用しての気持ち

三塚みきの様



納涼祭



国立あおやぎ苑最大のイベント“夏祭り”が今年は、縄文棟(7月26日)と既存棟(8月2日)別々に2週にわたって開催されました。恒例のよさこい踊りでは、当施設のオリジナル曲を初披露するなど、活気あふれる熱い夏をお届けすることができました。

多数のご参加、ありがとうございました。なお、このよさこい踊りは11月3日(文化の日)に市民まつりでも披露する予定です。ご期待下さい!



私のふるさと自慢

私の実家は埼玉県ふじみ野市にあります。私が住んでいた頃は上福岡市でしたが、2005年入間郡大井町と合併し、ふじみ野市に名前が変わりました。今回はふじみ野市の隣にある川越市を紹介したいと思います。川越市は小江戸と呼ばれ、その由来は川越藩主が江戸からの帰路、城下の町並みを見て「小さな江戸のようだ」と言ったと伝えられています。「小京都」と呼ばれる地方都市は全国に53箇所ありますが、「小江戸」と呼ばれる場所は川越しかないと言われています。

徳川家とゆかりの深いお寺、喜多院では江戸城か



ら移設された「家光誕生の間」や「春日野局化粧の間」をみる事ができます。家康の遺骸を日光に運ぶ途中に喜多院で法要を行った事から、日光三大東照宮のひとつである仙波東照宮も建てられています。

菓子屋・駄菓子屋が並ぶ菓子屋横丁も有名で、関東大震災後以後は被害を受けた東京に代わって千歳飴・金太郎飴・水羊羹・かりん糖など江戸菓子の製造供給を賄い全国に出荷していたようです。

よく川越駅周辺では外国人の方に喜多院や菓子屋横丁の場所を聞かれました。外国人の方も川越の文化に興味があるのでしょうか。皆さんも東京から近いのでぜひ行ってみたい。理学療法士 永瀬 妙子